

令和7年度 第1回 東京航空局入札監視委員会
審 議 概 要

開催日及び場所	令和7年7月28日(月) オンライン会議(Teams)	
委 員	委員長 橋 爪 宏 達 (大学改革支援・学位授与機構教授) 委 員 江 川 淳 (弁護士) 委 員 平 田 輝 満 (茨城大学大学院教授)	
審査対象期間	令和6年10月1日～令和7年3月31日	
審議概要 抽出案件	総件数3件	
	(1)工事	一般競争(総合評価落札方式) 1件
	(2)建設コンサルタント業務等	一般競争(最低価格落札方式) 1件
	(3)物品の製造等	一般競争(最低価格落札方式) 1件
委員会からの意見・質問、 それに対する回答等	意見・質問	回 答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申 又は勧告の内容	・特になし	

審議概要(別紙)

1. 工事(一般競争入札／総合評価落札方式)

東京国際空港海上保安庁格納庫給排水衛生設備その他工事

意見・質問	回 答
○業者へのヒアリングによると履行期間がずれていれば入札参加の可能性があったと受け取ることができるが、分析結果では、人件費や機材費の高騰に伴う工事価格の高騰により公共工事を避ける傾向にあると記載されている。履行期間をずらすことによって入札参加を促すことは難しいと考えているのか。	○数年前であれば履行期間をずらすことで入札参加を促すことはできたのかもしれないが、現状は常に技術者が多忙ということもあり、多少発注時期をずらす程度では改善は難しいと考えている。
○今後は、工事を細分化することは考えているか。	○今回は工事を細分化することで、細分化する前では WTO 案件となり経営事項評価点数の高い業者しか参加することができず参加者が少なくなったところ、細分化することにより点数の低い業者であっても参加できるようになり、実際に参加者がいたということで、効果はあったと考えている。 一方で、細分化すればするほど諸経費等の費用が上昇するという課題もあるため、今後については予算面なども踏まえ検討する必要があると考えている。
○空調工事と細分化したという認識か。 空調工事の方は一者応札とはならず、2者以上の参加があったのか。	○認識のとおりであるが、空調工事に関しても一者応札という結果になった。
○別々の業者が落札したのか。	○同一の業者が落札した。
○では細分化する必要はなかったのではないか。	○空調設備工事は空調設備と昇降機設備を1件として発注し、給排水設備工事は給排水設備と消火設備をもう1件として発注した。もともと1件であった機械設備工事を2件に分けて発注している。どちらも同一業者が落札したが、落札した業者は WTO の案件の場合は点数により参加することができない業者であったため、細分化しなければそもそも参加することができなかった。

○案件をまとめると参加ができないため業務を実施することができないが、細分化すると参加することができ業務も実施できる、ただ実施する業務としては同じとなると規則に工夫の余地があるのではないか。細分化して小規模企業が業務を実施できるということは、まとめても実質的には業務を実施することは可能ということか。 ○それは理解しているが、案件をまとめることで小規模企業が参加できなくなるという制約をどうにか緩和できないか。一見すると行政コストだけ上がっているように感じる。WTO 関係の制約がどうしようもないということは理解しているが、その制約を乗り越える方法はないのか、将来的に本件のような事象の改善策はないのか議論の余地があると感じた。	○大企業に関しては、規模の大きい案件に技術者を割きたい傾向にあると考えている。 ○工事のスケジュールにも影響を与えるものであり、今回の指摘を踏まえ今後改善策等を勉強していきたい。
---	---

2. 建設コンサルタント業務等（一般競争入札／最低価格落札方式）

丘珠空港除雪体制検討調査業務

意見・質問	回 答
○本件実施にあたり、各空港の欠航便の状況調査を実施したのか。その結果、丘珠空港が検討対象となった理由はあるのか。	○欠航便の状況調査は実施している。他空港が就航率9割を超えているのに対し、丘珠空港は9割を割っており、就航率が低い状況といえるため検討対象とした。
○本件については、欠航便調査等の結果が6月ごろに終わったため、入札公告時期が8月頃になったということか。	○本件については、除雪期間に現地の除雪関係者にヒアリングを行う必要があった。除雪の期間については令和6年11月から令和7年3月までとなっており、実際ヒアリングを行ったのも12月から1月の間である。よって業務の性質上、入札公告時期は夏ごろになる。
○調査の性質は理解した。そうであるならば、発注時期・入札時期を早めることは難しいのか。	○本件については、下半期に発注ということになってしまうが、資料調査や検討業務といった現地調査が必要ない業務に関しては、時期にとらわれず早期に発注できたのではないかと振り返っている。今後の発注業務に当たっては、本件の振り返りを踏まえて発注時期等を検討したいと考えている。
○入札には参加しなかったが入札説明書を配布し	○入札公告を見たうえで、手持ちの技術者の状況

た業者が2者いたとのことだが、両者とも下半期で技術者の手持ち案件が多く受注することが困難であるために入札を辞退したとなっているが、下半期に発注することは明確であるため、初めから入札に参加する気はなく入札説明書だけ受け取りに来た業者であったのだろうか。 ○本件受注者は大企業であると思うが、手持ちの技術者も多いのか。	を勘案し、入札に参加するのかを検討するものであり、本件については発注時期等から入札に参加できたのが本件受注者のみであったと考えている。 ○本件受注者は他2者に比べ空港に関する知識を有した技術者の率が多いのではないかと考えている。
---	--

3. 物品の製造等（一般競争入札／最低価格落札方式）

東京国際空港新 VOR／DME 局舎他3箇所受配電設備用監視制御装置製造据付

意見・質問	回答
○「既存システムとの整合性があるため他社だと受注が困難」という記載があるが、改善策はあるのか。	○他社が入札に参加できない仕様ではないが、既存のメーカー機器とシステムをつなぐためにもう1つコネクタのような設備が必要となるため、実際のところ製造しているメーカーより費用がかかり、その結果参入が困難になるのではないかと考えている。 改善策としては、コストメリットが出るように同様の製造内容の発注をまとめることを検討している。
○既存の業者以外に対して特別な手当てを用意するという意味合いか。	○特別というわけではなく、個々に発注すると設計や材料手配が都度発生し、その分費用が多くかかってしまうと考えており、発注をまとめることで、その費用を軽減できるのではないかと考えている。
○本件よりも規模が大きくなる可能性があるということか。	○その可能性はある。実際行ってみてどのような影響があるのかを確認していきたいと考えている。
○本件の規模は小さい部類になるのか。	○本件の規模は小さいわけではないが、本件は一度2箇所分で公告しており、その際は不調となった。そこで、4箇所をまとめたところ既存の業者1者が入札という結果になった。 発注規模を大きくした場合に他社が入札参加できるようになるのかについては、今後ヒアリング等を経て検討していきたいと考えている。